

# 龍飛から全国へ、夜に渡る鳥の目視による種別カウント調査

## ～夜渡り調査の継続と、全国の新しい観察地開拓に向けて～

### 【はじめに】

応募者 原 星一

渡り鳥の中には日中だけでなく夜間に移動するものも多くいる。従来、それを実際に目視することは難しく、夜空でどのような種が、どのように渡っているのか想像するしかなかった。そこで私は、2018年秋に、外灯に照らされる渡り鳥を直接目視観察できる場所を発見し、以降秋の渡り期に毎年観察を続けてきた。この方法は、レーダーや暗視スコープなどによる観察では判別できない種まで特定できる点が画期的である。過去2年間は当研究支援を受け調査を実施し、各年1万羽以上、これまで約100種に及ぶ渡りを記録し、夜に渡る鳥の種構成や通過時期などの基本情報を収集した。また、昼行性であるはずのハヤブサによる夜間ハンティングや、ヤマシギが分類群や生息環境の全く異なるハト類とペアを組んで渡る現象など、驚きの発見が続いている。さらに、月齢や天候による渡り鳥の動向の違い、ハヤブサやフクロウ類などによるハンティングについての調査研究を継続している。この最新の渡り鳥観察方法を継続、発展させることで、渡りに関する理解をより深めることができるはずだ。

### 【調査地、方法】

青森県龍飛崎付近にて、8月下旬～11月上旬の約2か月余り、北海道方向から南下してきた渡り鳥を1～数名で目視、あるいは撮影した個体をカメラのモニターで識別しカウントする。高空を通過する個体は、外灯だけでは暗くて識別不可能なため、補助的にハンディライトなどを使用する。

### 【調査の継続】

まだ開始して年数の浅い本調査ではデータの蓄積量が乏しく、何が一般的なのかさえ明らかでない。2023年秋の調査では、過去一度も確認がなかったマヒワが立て続けに記録され、2021、2022年の調査では一度も記録のなかったアカゲラが多く記録されるなど、過去数年とは異なる様子が伺える。さらに、ヨシゴイやヒクイナなど新たな種も確認された。渡り鳥の移動時期やルート、通過個体数などには年変動、経年変化があることが予想されるため、長期的な動向をモニタリングし、将来に今を振り返るためのデータを蓄積する。



マヒワ

調査6年目にして初記録だが、2023年は10月中旬に立て続けに記録された。



ヒクイナ

2023年に初確認された。北海道以北の個体数は多くないと考えられる本種の記録に衝撃。



アカゲラ

2021～2022年は全く観察されなかったが、2023年は9～10月にかけて30羽以上カウントされた。渡りの年変動が大きい種なのかもしれない。

## 【新たな試み】

### ① 春の調査実施

秋に使用している定点では、春には夜渡りを観察することはほとんどできなかった。そのため場所の選定から手探り状態が続いたが、観察に適した場所が付近で見つかり、ようやく本格的な調査を行う準備が整った。これまで秋には確認がなかった種も記録され、さえずりながら渡る鳥もいるなど、秋とはまた違う様子が観察されている。繁殖を控えた鳥が、つがいで渡ってこないかなど、秋にはない発見に期待だ。

### ② 夜渡り観察の全国への普及へ ～現地での勉強会～

本研究をきっかけに、当地以外でも夜渡り観察を行いたいという観察者が増えてきたが、うす暗い中飛翔する鳥の撮影や識別が難しい、そもそも場所が見つからないなどの声がある。そのような観察者を現地へ受け入れ、夜渡り観察に必要なスキルを勉強する機会を調査シーズン中に用意する。具体的には、各種の識別ポイント解説、持参いただいた撮影機材による最適な設定の模索と、実際に渡りを見ながらの練習、地図を見ながら各地フィールドでの観察地探索をアドバイスするなど、現地だからこそ可能な観察スキルや情報を提供する。観察地を増やし、将来的にはより広域的な調査体制を構築し、全国的に夜渡りの状況を把握することが目的である。

## 【2023年調査の速報】

2023年の調査も順調に進み、概ねの渡り鳥が出揃った。調査はもう少し続くが、10月25日終了時点での途中経過を報告する。主要種からピックアップした集計表を右に示した。外灯の光が届く範囲という、全体からすれば氷山の一角を捉えるに過ぎない方法でありながら、今季はシメやイカルなどのアトリ類が好調であるなど年ごとの傾向の違いが分かり、クイナやムギマキなどの記録の多くない種についても毎年同様に確認できている。また、月が明るい満月前後よりも、空が暗い新月前後で捕捉できる渡り鳥が多く、満月時は月の手前高空を渡る鳥のシルエットが捉えられる傾向が今季も続いた。コマドリやホオジロ類など、渡りのピークが短くて年変動の激しい種は、個体数や渡りルートの変動以外に、満月前後に外灯では捉えられない高空を通過してしまっている可能性もあるだろう。

月の手前高空を通過した推定クイナ

満月時は外灯の光では

捉えられない高空を渡っている？



## 助成金の使用用途

ハンディーライトなどの照明器具や撮影機材、バッテリーなどの消耗品の購入、宿泊などの現地滞在費、交通費、勉強会で使用する資料作り等に充てる予定です。ご支援よろしくお願いたします。

表.2021～2023年における主要種のカウント数の推移

合計はここにはない種も全て含めた通過数

種	2021	2022	2023
キジバト	296	310	413
アオバト	1085	1032	965
クイナ	13	16	12
ツツドリ	33	31	40
ヤマシギ	90	116	103
アカゲラ	0	0	37
ヤブサメ	97	259	291
シマセンニュウ	79	199	113
エゾセンニュウ	96	95	68
マミジロ	316	310	181
トラツグミ	160	174	167
クロツグミ	270	398	298
マミチャジナイ	3134	3282	2274
コマドリ	8	93	7
ノゴマ	100	218	213
キビタキ	97	194	210
ムギマキ	10	12	13
オオルリ	34	56	128
シメ	46	33	179
イカル	13	15	86
アオジ	681	3198	4901
クロジ	146	498	814
合計	12462	15955	14786